

脇 芳美 議員

新緑



市道綾坂線鼓岡第一踏切の拡幅を

Q 当該踏切は幅員が狭いにもかかわらず、交通量が多い上に小・中学生の通学路にもなっている。早急に拡幅する必要があるのではないか。

A 踏切の整備は、近隣の踏切との統廃合による整備が基本となっています。鼓岡第一踏切においては、鼓岡第二踏切を廃止し、当該踏切に統合する意見が地元関係者の協議でまとまり、同意書が提出されました。これを受け、昨年度現地の測量設計を実施しました。



現在、踏切拡幅計画を含めた市道綾坂線の道路拡幅、県道との交差点改良についてJRや関係機関との協議を進めています。それらがまとまり次第、地元関係者に説明を行い、事業の進捗を図ってまいります。
(建設経済部長)

市が推進している受動喫煙防止策は

Q 受動喫煙が原因で死亡する人は年間約1万5千人にもなるそうので、受動喫煙による健康被害は深刻な問題である。国では、受動喫煙対策を強化する健康増進法改正案について、秋の臨時国会への提出を目指しているようである。本市における受動喫煙防止策にはどのようなものがあるのか。

A 第二次坂出市健康増進計画において、タバコの害から自分と家族の健康を守ろうという目標を掲げ、啓発活動を実施しています。昨年度は、川崎重工業の工場祭において、タバコの害のパネル展を実施し、また、健康講演会や医師のお話も「タバコの害」というテーマで開催しました。

さらに、母子健康手帳交付時やこんには赤ちゃん訪問などの機会を通じ、家族の禁煙指導なども実施しています。
(健康福祉部長)

質問の項目
質主
・土地開発行為について
・ヒアリについて

出田 泰三 議員

市民の声



学校での平和教育・平和学習の現状と課題は

Q 今や日本人の8割以上が戦後生まれとなり、戦争の実相を語る人もいなくなりつつある中、子供たちに戦争の記憶を伝え、受け継いでいくことが、大人の役割、使命である。現在学校で行っている平和教育・平和学習について、現状と課題を伺う。

A 高松空襲を取り上げた授業や地域の戦争体験者による話を聞くことで、戦争の悲惨さや平和の大切さを再認識しています。また、広島への校外学習、長崎や沖縄等への修学旅行時に、被爆や戦争の体験を語り部のかたから直接聞く機会を設けています。

しかし、語り部のかたの高齢化が進み、そのような機会が減る一方で、教師は、急激な若年化により、祖父母等から直接戦争体験を聞く者が少なくなっています。

教育現場とともに指導のあり方を工夫し、平和で民主的な国家社会の形成者として必要な資質を備えた人物となるような教育を推進していきます。
(教育長)

教職員の勤務状況の改善を

Q 教員の勤務状況の改善に向け、中央教育審議会が文部科学省に、教員のタイムカードの導入や部活動の休養日を設ける等の提言を行った。本市の今後の方針はどうか。

A 教職員の勤務実態の適正な把握方法については、校長会とも十分に協議し検討します。部活動については、現在も月に2回程度休養日を設定していますが、今後、文科省が作成するガイドラインや県教育委員会が立ち上げるプロジェクトチームの動向も注視しながら、実効性のあるものを検討していきたいと考えています。

なお、現在も教員以外のスタッフを配置し、専門的サポートによる指導体制の充実に努めているところですが、今年度よりコミュニケーション・スキル設置研究事業を行っており、今後も業務改善と学校支援体制の両面から整備することで、教員の多忙化解消、勤務環境整備に取り組めます。
(教育長)

質問の項目
質主
・にぎわいつくりについて
・文書管理について